

次世代エンジン開発促進に向け、目指すは世界初のデータ取得

大学院について

大学院進学は自分自身への投資だと思います。大学院で得られる知識や経験は、将来、目的を達成しなくてはならないときや問題を解決しなくてはならないとき、その手段の選択肢を増やしてくれる可能性を持ちます。また付加的な点では、学部卒に比べて大学院卒の方が就職の幅が広く、給与が高い傾向があります。理由は何でも構いません、自分にとってメリットがあると思うのであれば、将来の自分の可能性を広げる手段として大学院進学は良いと思います。

研究について

研究を進めていくと多くの課題を解決していくことになります。手を抜くこともできと思いますが、その分、課題を解決する機会が失われることになり、自分が成長する機会を失うことになります。一つ一つの課題に本気で取り組み成長することが自分の価値を高めることにつながると思います。

研究室について

私の研究室ではディーゼル機関、つまりトラックやバスなどのエンジンについて研究をしています。最近は電気自動車が台頭

メッセージ

知能機械工学専攻

駒田 佳介 助教 博士（工学）



-プロフィール-

- ◆所属
工学部知能機械工学科
工学研究科知能機械工学専攻
- ◆所属学会
日本機械学会、自動車技術会、
日本液体微粒化学会
- ◆研究分野
流体工学、計測工学
- ◆研究キーワード
ディーゼル噴霧、液滴、レーザー計測
- ◆研究テーマ
ディーゼル燃料噴霧内部構造に関する研究
- ◆趣味・特技
体を動かすこと
- ◆研究室のルール
思いやりを持った行動を

してきており、ガソリン機関やディーゼル機関の影が薄くなっていますが、電気だけですべてをまかなうことはインフラや材料調達の観点からすぐには難しいのが現状であり、2050年においても新車販売台数の半分は内燃機関を搭載していると予想されています。また、ディーゼル機関は船舶や火力発電所でも使用されており、私たちの生活にとって重要な技術であることから、その性能の向上が求められており、最適な燃焼を実現する必要があります。燃焼は温度や燃料の濃さの影響を受けます。当研究室は燃料の濃さを決める燃料噴霧特性を研究対象としており、独自に開発したレーザー分析計を用いて次世代エンジン開発に向けた世界初のデータの取得を目指しています。

【駒田研究室の皆さん】



◆駒田研究室には、現在11名の学生が所属しています。
◆掲載写真は全て坂田賢祐さんによる撮影です。結婚式の記念撮影を担当した経験があるほどの腕前をお持ちです。（坂田さんの写真は東口さんが撮影）

【研究室メンバーからのメッセージ】

大学院2年生 坂田賢祐さん

皆さんこんにちは。駒田研の坂田です。駒田研では自主性が非常に重要です。自らを律し、考え行動する事が求められます。その上で、自由度が高い研究室でもあります。軽めの空気も相まって、人にもよりますが居心地の良い研究室だと思います。皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。



大学院1年生 中村美月さん

現在、液滴の微粒化特性の解明について研究を行っています。研究を進めていく中で分からないことや難しいことは多くありますが、研究室のメンバーと協力して一つのことをやり遂げたときの達成感はとても大きいです。



大学4年生 東口熙生さん(大学院進学予定)

私の所属する駒田研究室はとても和気藹々とした楽しい研究室です。普段は先生と研究のことも話しますが、時々プライベートの話で盛り上がるほど学生との距離も近くて楽しいと感じています。



研究者になるための要素満載の大学院

修士課程 電子情報工学専攻 2年

小野 資治 さん (松本裕二 研究室)

(福岡県立久留米高等学校)

【自己紹介】

趣味・特技：ソフトテニス
得意・好きな科目：プログラミング
将来の夢：安全な自動車社会の実現

○私の研究テーマ

自動車運転の危険性評価に関する研究

本研究は、自動車事故防止を目指したものです。運転者の運転の方法や周囲の環境情報を用いて危険性を評価し運転情報の改善点を運転者自身にフィードバックすることで自動車事故の防止を行うものです。この研究により、総合的な運転の危険性評価を行えるようになり、自動車事故の防止につながれば嬉しいと思います。

内定先

大手自動車部品メーカー



研究室でドライビングシミュレータを操作する小野さん

進学を決定づけた奨励金制度

私が大学院に進学したきっかけは、「学業優秀者を対象とした奨学金支給制度」の話を聞いたことです。前々から、大学院に進学してより深く学びたいと考えていたため、この話を聞いた際に大学院への進学を決めました。

プレゼン能力向上で成長を実感

大学院で成長したことは、プレゼンテーション能力です。大学院に進学して1年間で国内外の学会で3回ほど発表を行いました。また、講義でも発表を行うことが多く、大学院に進学したことで発表の機会が増え、プレゼンテーション能力が向上したと思います。

貪欲に学び深い洞察力を修得する大学院で更なる人間性向上を目指す

大学院に進学する魅力は、自身の人間力を向上させることができる点です。大学院での研究では、勉強とは異なり、正解があるかわからないような問題と常に向き合う必要があります。その際に、様々なアプローチを行うのですが、今まで知らなかった領域の知識が必要になることがあり、常に貪欲に学ぶ姿勢が身に付きます。また、研究を行う際に個人で研究を行うだけでなく、後輩たちとチームで研究を行うことも多いです。その際にチームをまとめる能力や、ディスカッションを通して多角的な物の見方やより深く捉える能力が身に付きます。このように、大学院に進学することで研究者として必要な素養を身に付けることができるため、後輩にはぜひ大学院への進学を視野に入れてみて欲しいです。

コロナ禍においても安定の大学院の就職！

本学大学院では入口から出口まで、徹底した教育・研究の品質管理を実践しています。その結果、知識・技術・豊富な経験値などが評価され、企業から即戦力としての需要も高くなります。未曾有のコロナ大不況の只中においても超ハイレベル企業への就職内定が次々と報告されています。

資格取得へたゆまめ努力、進学で一層躍進

修士課程 情報通信工学専攻 2年

中野寛二 さん (内田法彦 研究室)

(私立佐世保実業高等学校)

内定先

日本電信電話株式会社

○私の研究テーマ

次世代インフラ基盤に関する研究

きっかけはITインフラ資格取得

私は、将来は大学入学前から興味を持っていたITインフラ分野に関わる仕事に就きたいと考えていました。しかし、学部3年になり就職活動を行った際、私自身のこの分野に関する知識不足を感じ、ITインフラに関する資格取得を目標にして学び直すことにしました。この経験からITインフラの面白さを再確認し、さらに深く学びたいとの思いが強くなり大学院への進学を決意しました。この進学により私の人生が大きく変化することになります。

貴重なインターンシップの経験

大学院では、学会発表を始めとした様々な経験ができます。そして修士1年の夏に日本電信電話株式会社の研究所部門であるNTT研究所のインターンシップに参加することができました。インターンシップでは、大学と企業の研究に対する考え方の違いを知ることができ、また他大学の学生との交流で研究に対するモチベーションの向上に繋がりました。さらに世界トップクラスと言われる研究開発の最先端現場を体験でき、刺激的な日々を過ごしました。

希望の会社から内定

その後の就職活動の面接では、大学院での研究について深く掘り下げて話す場面がありましたが、大学院で得た経験により自信を持って臨めました。その結果、難関の日本電信電話株式会社から内定を頂くことができました。

大学院の魅力

大学院の魅力は、「興味ある事とことん学べる期間」と「経済的支援」です。自分自身にとって興味のある分野に対して、とことん知見を深める事ができる貴重な期間だと思います。また、高度な専門知識と研究スキルを持つ先生や友人と研究に関して議論することで視野を広げ新しい発見を得ることも多くあります。

一方、本大学院は様々な経済的支援も充実しています。例えば、学会の旅費補助制度です。実際に私はオーストラリアなど遠方で開催された学会に参加する際の費用を補助していただき、安心して渡航できました。学会発表は研究成果に対する議論ができる絶好の場所で大学院ならではの経験ができます。

コロナウィルスの影響で思い通りにいかないこともありますが、この先どんな状況下においてもITインフラのスペシャリストとして活躍できるよう、さらに力を付けていきたいと思っています。



LPIC-1、CCNA、CCNP等、学部時代に超難関試験に次々と合格した中野さん

